

様式第2号（第5条関係）

一般会議実施報告書

開催日時	平成30年6月1日（金） 18時00分～20時00分
開催場所	市役所本庁舎1階 多目的室
出席議員	黒辺一彦・犬飼勝博・藤井基夫・磯部雅弘・青山繁・松崎隆治・大塚久美子・本郷照代・神谷雅章・渡辺信行・松井晋一郎・前田修・永山英人・石川伸一・鈴木武広・稲垣一夫・鈴木正章・颯田栄作・長谷川敏廣・稲垣正明・小林敏秋・神谷庄二・新家喜志男・牧野次郎・鈴木規子・筒井登・山田慶勝 27人
参加人数	「市民が議会をよく知るための会」鈴木晋三始め40人
内容	1. 公共施設再配置実施計画について 2. 公共施設総合管理計画の進め方について 3. 市民病院の今後について
主な意見・要望等	1. 「市の財政計画を広く市民に周知すること」と「市の計画について見える化を図ること」について、市民側と多くの議員の意見が一致した。詳細は別紙参照。 2. 市民からの要望は以下の通り。 ・財政面も含めて行政の情報を市民に広く公開し、共有を図っていただきたい。 ・広く市民の意見を聞く機会や議会報告会を催していただきたい。

西尾市議会議長 様

西尾市議会一般会議実施要綱第5条第1項の規定により提出します。

平成30年6月11日

平成30年6月1日一般会議 記録者 山田慶勝
鈴木規子



《一般会議 主な意見・要望等》

「市民が議会をよく知るための会」代表者の趣旨説明：

公共施設再配置の基本理念は「市民と共に考える」という。市民が黙っているとドンドン進み、子や孫が大変な思いをする。それではいけないとの思い、市民にとって重要な事業と考え、議員との意見交換をお願いした。

テーマ（１）公共施設再配置実施計画について、

01～07 までの新設や更新は、教育や医療保健機能が優先とされるべきではないのか。全体計画があるべきと思われるが、市にどう働きかけていくのか。

小林：機能ばかりの優先ではなく、施設の重複や老朽化を考え、総量抑制を。新設については、優先度を考えて市に働きかける。

松崎：合併によって施設が増えた。重複をみて総量圧縮を優先すべき。現段階では、義務教育も医療保健の施設も増やしこそすれ、減らすべきではない。全体のムダをなくしてから。その分で義務教育や医療福祉施設に回すことを考えたい。今後は個別計画が進められているので具体的になるよう提言していきたい。

鈴木正：合併して重複は多く、総量維持はムリ。01～07 では、教育施設は耐震化をやってきた。生命財産を守るものが優先されたと思うが、当面、それがなければ出来ものから進め、1 施設複数機能を持たせるべき。耐震性のないものは失くす。なくすなら多目的化。これから第2次、インフラの総合計画がある。市民生活に影響するものからやっていくよう提言していく。

神谷雅：一番大事なものは地域が元気でなければならないということ。今の計画で地域が元気になるだろうか。さらに、どんなまちにするかの考えが先であると、市に提言していく。義務教育や医療保健施設はこれから検討していく。

前田：当初計画は、業者が生業とするスポーツ施設ばかりが提案された。市民が言われるのは、全体を見たうえでの順位との指摘と思う。当初計画は本当に減っているのか、増えているのではないのか。市民の指摘する順位を考えたい。今後、何が必要で不要かを議論するうえで、市民の要望をどう受け止めるのか、今回のこういう場を大事にするのもひとつ。

Q（会員）：3月5日の市長の見直し方針後に、自分の考えを表明すると言われた方が多い。市長の今の方針にどう対応するのか聞かせてもらいたい。

Q（会員）：20年後のために最低限困らないだけの準備がある。「今」だけではなく、しっかり考えたうえでやっていくことが重要ではないか。

A 松崎：しっかり計画性をもってやっていくことが重要。

テーマ（２）公共施設等総合管理計画の進め方について

- 1 長寿命化しても1000億円の予算が不足するという。神奈川県秦野市のように、市民に対して財政状況をしっかり示し、市民と問題の共有

をしてから考えるべきと思うがどうか。

颯田：市民の生活に関わるものにはなかなか手がつけられない。リフォームは高くつく。中村市長の見直しは、財政面をオープンにしていなかったため、見直し方針のメリットがわからない。まったく同じようにPFIで選挙に勝った神栖市では3ヶ月で見直しを行わなかった。見直しを見直すべき。市のアドバイザーだった恒川先生はコストの検証が重要と言われた。市長がコスト検証をしていないのが理解できない。市民と行政と議会がともに考えていきたい。

松井：市民と情報を共有し、財政状況も共有すべき。市HPでは財政計画を公開している所以理解の一つとして見てほしい。現在の人と未来の人たちとも2015・2045年問題すなわち1人で5.7人を支えていたのが2.1人で支える時代になることを考えたい。議会としても情報公開を進めたい。防災の観点も必要だし、選択を考えていかないといけない。

鈴木規：財政状況の市民との情報共有は今から大きなテーマであり、市民との話し合いの機会を積極的につくっていくべき。神栖市と本市とは状況が異なる。神栖市は大規模事業の防災公園ではあったが、西尾のような包括方式ではないので比較にならない。見直し運動が起きたのも契約後で、既に工事は始まっていたため中止できず、見直しができなかった苦渋の決断と聞く。

前田：神栖の共産党議員に確認したところ、やはり、契約形態が大きく異なっていた。比較対象にはならず、西尾市も見直しをやめろというのはいかがなものか。西尾市方式が失敗したのは、情報の公開がなかったこと。企画提案も黒塗りでVFMもなかったこと。これからは総合管理計画も財政計画もしっかり公開をしていくことが必要。

Q（会員）：市民への情報の発信の仕方はどうつくっていけるのか。議会報告会は手段としてどうなのか。議員から、より地域に密着した場をつくることはできないのか。

A（松井）：議員それぞれの考えがある。市の出前講座や各議員の活動の中で情報提供ができるのではないかと。

テーマ（2）

2 公共施設再配置計画では今後30年のうちに総床面積を16%削減する必要がある。進捗の見える化が必要だが、具体的な施設をいつ削減していくのか。30年の工程表を作ってはどうか。

本郷：先進地の秦野市では5分で分かる公共施設再配置の情報を出している。30年では実際的にどうかと思うので、5年位で市民の意見を聞いて見直すなどしていかなければならないと思う。

牧野：市民の理解と合意のために見える化は必要。一律16%だけの先走りは不安。市民と協働できることが示せたらと思う。

黒辺：桑名市はPPPの例があるが削減率33%。今と同じモノは提供できなくなる。

30年は長い。時代は変わる生活も変わる。中長期10年で見える化を図ることを考えたい。市民に分かる形を提言していきたい。

鈴木正：見える化はすべき。市は5年で見直すと言っており、それでよいと思う。

テーマ（2）

3 ハコモノは少量削減ができるが、インフラ・プラント976億円の具体的な削減方法はどのようなか。機能別につくってはどうか。

石川：自分は契約に賛成した。当初計画をそのまま進めるべきだと思っている。インフラやプラントはライフラインであり総量の縮減は難しい。予防保全、長寿命化が基本方針ではないか。ハコモノは個別の検討を働きかけていきたい。市長が見直しをやめれば、市の損害は少なくてすむと考えている。

稲垣正：個々のインフラ・プラントは橋梁や道路管理、防火水槽のように市でまともまっているものとそうでないものがある。これからまとめることになっているが、議会としても出来るだけ早めるよう働きかけていきたい。

渡辺：個別計画の策定にあたり、単独で策定するのではなく全体をマネジメントして策定する視点が必要と思う。

筒井：再配置を当初計画の通りに進めるのは反対である。賛成にしる反対にしる、議員にも説明責任が伴う。寺津プールについては教育長にも言っているが、賛成の議員には自分を論破していただきたい。それが理解できれば、見直しをしなくてもいいと思っている。

山田：PFIは安倍政権からの指示。インフラが本当に、削減が必要なのか。30年後を見越して今から止めることができるのか。老朽化したら考えればいいんじゃないかという先生もいる。人口減少の実態を見て考えていく必要がある。

Q（会員）：23号の高架下などが遊んでいるが公園にできないか。高齢者の運動の場にできるのではないか。

A（渡辺）：よい事であるので、どのような手続きが必要かなど調べて有効活用を考えたい。

Q（会員）：削減率16%の一人歩きが心配。各議員の報告会など広く伝えて欲しい。

A（渡辺）：30年先まで公表するのは社会情勢や市民ニーズと計画に乖離が懸念されて難しい点もあるが、10年のローリングによるフォローアップとリンクと合わせて5年スパンのアクションプランの策定で行われる。

テーマ（3）市民病院について

18年連続の大きな赤字になっている。事業が動き出してからでは遅いので、市民の意見を吸い上げて欲しい。今後の対応について市民の総意をどのようにまとめていくのか。

大塚：医療圏の中で統合を考えていく水面下で交渉していたが公になった。職員も戸惑っている。統合ができなかったら、次の手を考えている。市民の意見を聞き、

見える化していくのが重要。議会報告会については毎年やりたいと思っている。

犬飼：市民病院は市民にとって必要不可欠。各人それぞれの考え方があると思うが、病院の実態を知ってもらうのが重要。検討をしながら進めたい。

青山：さまざまな考えの人がいる。碧南市からは6月5日に回答、検討委員会をつくっていき公表されると思うが、自分としてもさらに報告会をしていきたい。

神谷：7～8年前に市民病院検討委員会があり、安城厚生病院に話をしてはどうかと提案した。しかし、医師の派遣がなくなるなど問題がある。自分としては碧南でもよいと思っている。

Q（会員）：経営だけ統合するということはできないのか。

A（渡辺）：合併、売却、独立行政法人化など経営の立て直し策はある。現在も様々な対策を考え取り組んでいる。救急搬送患者数が年間に約4千件あるので施設は保持したい。市民が赤字額をどこまでなら納得するのかが問題。抜本的な改善、赤字を解消するには経営者が「公」ではなく「民」でなければ難しいと思う。

以上